

地域ボランティアの方と一緒に

5、6年生の子供たちは、家庭科の授業で、手縫いによる小物作りに取り組んでいます。各自がオリジナルの小物入れを完成させようと、目を輝かせながら挑戦しています。しかし、裁縫は日常生活の中で特別な作業となりつつあり、裁縫の経験が少ない子供たちが多いのも現状です。そのため、裁縫の基本である「玉結び」や「玉止め」も、初めての子供たちにとっては難しい作業のようです。慣れてしまえば簡単にできるのですが、学級担任一人で全員のサポートをするのは容易ではありません。

そこで、地域学校協働本部を通じて、学校支援ボランティアの方々に御協力をお願いしました。地域学校協働本部とは、地域や町が一体となり、学校を応援すると共に、子供たちの学びを支えるための組織です。地域のみなさんと学校が連携を深め、協働を推進するための重要な役割を担っています。

今回の小物作りの授業では、22日と27日の両日に、延べ8名のボランティアの方々にお越しいただきました。12月4日にも来ていただく予定です。裁縫のサポートをいただいたおかげで、子供たちは自信を持って作業に取り組むことができ、小物作りも順調に進んでいます。完成に近づく作品を手に、子供たちの笑顔が一段と輝いているのが印象的でした。



地域学校協働本部では、今回のような授業支援だけでなく、毎月の読み聞かせや、夏休み期間中に行う親子奉仕作業のボランティア手配なども行っています。このような地域の方々の力強い支えがあるからこそ、私たちはより充実した学校教育を進めることができます。

これからも地域とともに歩み、子供たちの成長を見守っていきたいと思います。